

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価（3月26日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①確かな学力の育成に努め、質の高い学びを実現し、生徒が自らの個性・能力を伸張する高い意識を持って学習するカリキュラム・マネジメントを進める。 ②国際理解教育の推進及びグローバル人材の育成を図り、持続可能な社会の創り手として学び続ける自立した学習者を育成する。 ③学校行事や生徒会活動等においては生徒が主体的に取り組み、生徒中心の行事となる取組を促進し、他者に影響を与え、学校や社会に貢献できる人材を育成する。	①確かな学力の育成と質の高い学びを実現する。 ②生徒が自らの個性・能力を伸張する高い意識を持って学習に取り組む。 ③-1 生徒が主体的に学校行事を企画運営し、他者へ影響を与え、学校や社会に貢献できる人材を育成する。 ③-2 生徒会活動を活発にし、生徒会が活動の中心となり他の生徒と共に学校や社会に貢献できるようにする。また部活動を活性化させる。	① 基礎学力の向上を目指し、教科内及び他教科と協働し授業実践を行う。 ②探究活動を推進し、生徒の向上心を育み、学びの振り返りをより高い目標に結びつけられるよう支援する。 ③体育祭・文化祭・スポーツ大会・百人一首大会等の実行委員会を生徒主体で企画運営させる。	① 教科会を中心に授業づくりの検討を進め、学力の向上に努めることができたか。 ②-1 ICT等のツールを活用しながら生徒が主体的に学ぶ仕組みづくりができたか。 ②-2 生徒の向上心を育み、より高い目標を持たせるように支援できたか。 ③ 生徒主体の学校行事が運営できたか。	①授業評価アンケートをもとに授業づくりの問題点を洗い出し、教科で分析した。10月に校内授業研修を実施予定である。 ② 総合的な探究の時間を中心に課題探究に取り組み、生徒の主体的な活動を促している。 ③6月7日に生徒会役員と体育祭実行委員会が中心となり体育祭が盛大に開催された。	①知識の定着や学んだ知識の応用について取り組みを進める必要があるため、校内研修を通して授業実践を進めたい。 ② ICTの活用は進んでいるが、教科指導における探究活動については教科会等を通して検討を進める必要がある。 ③現在進行中の文化祭も生徒が主体的に企画運営を行っている。今後のスポーツ大会や百生戦に生かしていきたい。	①基礎学力の向上は長期的に取り組んで頂きたい。昨今の学生の読書量の少なさに留意すれば基礎学力の向上が期待できる。 ②探究は生徒の良さを伸ばすことができる。教科横断型で、総合的な探究の時間をはじめ、多くの教科で実践を図ることを期待する。 ③校内授業研修や行事などで、教員も生徒も対話を通じた創意工夫を行っている。	①1年間を通して授業評価アンケートを参考にしながら教科ごとに計画的に目標設定と振り返りを行うことができた。成果として表れるまで継続的に実施したい。 ②効果的な探究活動やICTの活用については今後も検討が必要である。特に教科学習とICTの共存については課題点が多い。 ③体育祭・文化祭・スポーツ大会・百生戦のすべてにおいて、各委員会が主体的に企画運営に取り組み、学校行事を大いに盛り上げると共に多くのリーダーが育った。	①進路グループとも協働し、生徒の学習習熟度の動向や進路状況を確認しながら継続的に授業改善を行っていく。 ②各教科で探究活動を進めていき、その情報を全体で共有したり、深化させたりできるようなシステムをつくっていく。 ③今後も生徒が主体的に企画運営をする行事を継続すると共に、より多くのリーダーを育成していく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒一人ひとりの個性や実情に応じてそのニーズに応え、多様な可能性を延ばす支援体制の充実を図る。 ②困難を抱える生徒を支援につなぎ、誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた支援体制の構築を図る。 ③規範意識を養い、安全・安心な学校生活を保障し、自尊感情や自己効力感を高め、自他を尊重する心を育み、ウェルビーイングの実現を目指す。	①組織化された教育相談体制を継続し活用する。 ②教育相談の充実など生徒支援体制の整備による中途退学等の防止。 ③道徳的実践力の育成による規範意識の高揚及び問題行動の未然防止。	①日頃から家庭や学校における困り感など相談しやすい体制を整え、信頼関係を築いていく。 ②生徒の悩みに対して、適切かつ可能な限り迅速に対応し、安心して学習に取り組むことができるよう教育相談を充実させる。 ③発達段階に応じて、互いの人格や権利を尊重し合い、自らの義務や責任を果たし、平穏な社会関係を形成するための方策や考え方を身に付けさせる。	①組織化された教育相談体制を継続し活用することができたか。 ②中途退学等を防止することができたか。 ③道徳的実践力の育成による規範意識の高揚及び問題行動の未然防止ができたか。	①生活指導グループ担当者を中心とした教育相談担当者を各学年に配置することで、生徒情報の共有や支援がスムーズに図れている。 ②担任から学年の教育相談担当者へ。教育相談コア会議に繋げ、支援の方向性を協議している。 ③生徒指導内容の見直しを図り、より現代社会に見合う道徳的実践力の育成に努めている。	①定期的な情報共有の実践、相談がし易い環境づくりが出来ているか。 ②生徒の取巻く環境を理解し、どの様に支援をするか。 ③生徒に応じた指導・支援の実践は出来ているか。	①②生徒のバックグラウンドの多様化などにより、現場での対応が困難を増していることと拝察する。現場において対応できることは限られている。生徒への支援と指導の丁寧さは素晴らしい。 ③理解のある職員が多数おり、教育支援体制について良い方向に進んでいるように思われる。	①教育相談体制の組織化が図れた。学年ごとに配置された教育相談C0中心に生徒の細部に亘って支援ができた。教職員全体が、組織的な生徒支援を達成できるよう継続して行う。 ②欠席が続く生徒に対し、素早い支援を行った。近年、不登校生徒が増加しているが、それに対応できる人材の確保が必要。 ③懲罰的な指導内容を廃止し、現代社会に見合う生徒指導を行った。引続き、自らの義務や責任を果たせる生徒を育成したい。	①各学年のバラスを考えた教育相談担当者を配置する。また、生徒理解のための職員研修を定期的実施する。 ②各担任がひとりで抱え込むことのない組織づくりを構築していく。 ③生徒個々に応じた指導・支援を行っているかを常に振り返り点検を行う。
3	進路指導・支援	①予測不可能な時代の中でも、活躍することのできる人材の育成を図る。 ・生徒自らのキャリア形	①生徒自らのキャリア形成を意識できる進路活動の充実を図り、より高い進路目標設定が行える指導・支援	①生徒が個々に応じた目標を設定できるよう、模試、資格試験、夏期講習等を	①-1 生徒が各学年に応じた進路目標を設定できるよう各試験、夏期講習等の活	①各試験や講習を通じて学習支援体制を向上させるよう努めている。	①模擬試験については今年度より授業での活用を促進しており、効果的	①②各種試験や講習の実施は有効であると思うが、生徒個々人がどのよ	①多様化する進路活動に対応するため各種情報収集に努め、生徒個々の志望に応	①引き続き進路関係情報の収集と整理に努める。模擬試験の時期・内容

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月26日実施)	総合評価（3月26日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		成を意識できる進路活動の充実を図り、より高い進路目標設定が行える指導・支援を推進するための体制を構築する。 ②将来の自分のキャリアに責任を持ち、生涯にわたって学び続ける学習者としての基盤を培う。	を推進するための体制づくりに取り組む。 ②将来の自分のキャリアに責任を持ち、生涯にわたって学び続ける学習者としての基盤を培う。	有効活用し、進路実現に向け学習支援体制を向上する。 ①-2 生徒に社会の中での自身の立ち位置を掴ませ、より高い目標の明確化及び、その確実な実現を支援する。 ②総合的な探究の時間を通し、思考力及び主体的協働的に課題を解決する力を養うとともに、校外での活動や第三者からの評価を取り入れ、新たな視点の獲得を促す。	用を促進し、学習支援体制を向上させることができたか。 ①-2 生徒が高い目標設定を行うことができたか。 ②総合的な探究の時間を通し、思考力や課題解決力を養うことができたか。 また、探究活動に際して、校外での活動や第三者からの評価により、新たな視点を獲得することができたか。	②総合的な探究の時間を通し、思考力や課題解決力を養うように教材等を工夫している。 上級学校見学や、行事等の機会をとらえた校外との交流を企画している。	な方法を引き続き検討中である。 ②校外での活動を中心に、第三者評価を適切に得られるように工夫していく。	うな途に進みたいか、何を専門に学びたいのかを明確にして進路決定できるように本人と面談などを実施して頂くとよい。保護者の意向と本人の気持ちが一致しない場合もあり、悩んでいるケースもあると聞いた。 ②探究活動は進路実現につながる。郊外での活動の透明化を図ればもっと活性化できる。	じた支援を行うことができた。また支援の一環として模擬試験や講習を実施し資格試験を推奨した。受講(受験)者は昨年に比べて増加しているが、学習習慣の定着と学力向上にむけて、さらに活用をすすめたい。 ②総合的な探究の時間では、生徒それぞれが自ら設定したテーマを掘り下げ、思考力や問題解決力を養うことができた。	について新年度から一部変更し、より効果的な活用をはかる。 ②外部への発信の機会を持ち、その体験が学習の深化につながるよう工夫したい。
4	地域等との協働	①地域・保護者等と連携・協働し、学校の教育力の向上を図るとともに、地域に親しまれる学校作りを進める。 ②コミュニティ・スクールの取組の推進により、地域の教育力の活用や産学協働体制の構築を図る。	①地域・保護者等と連携・協働し、学校の教育力の向上を図る。 ①-2 地域に親しまれる学校作りを推進する。 ②コミュニティ・スクールの取組の推進により、地域の教育力の活用や産学協働体制の構築を図る。	①総合的な探究の時間を通して地域の課題を見出し、地域・保護者等と連携して解決方法を考え内容や成果を配信する。 ②地区の教育機関と連携をとり、互いに学び合えるコミュニティづくりを進める。	①総合的な探究の時間の成果発表を行い、地域・保護者等と連携を図って課題解決することができたか。 ②地域との連携した活動や地区の教育機関と連携し、キャリア活動が活発にできたか。	①総合的な探究の時間で地域の課題設定を行っている。今後、課題解決方法を考えていく。 ②10月に地域貢献活動として1学年が地域清掃を行う予定である。	①地域に向けた課題設定の際、地域・保護者等と連携を早い段階で行うことで、よりよい課題を設定することができると考える。	①地域との良好な関係の構築はとても重要だと思う。ボランティア活動、イベントの開催を通じて、自己肯定感に繋がり、ひいては高校への帰属意識を高めることにも繋がるであろう。	①地域の行事に本校生徒が参加するなど、地域との良好な関係を築くためのスタートを切ることができた。 ②10月に予定していた地域清掃は雨天のため中止となった。	①来年度、地域の関係の構築をさらに強固にするための活動を行っていききたい。
5	学校管理 学校運営	①校務におけるコンプライアンスの徹底と不祥事防止の徹底により、信頼に根ざした学校づくりを推進する。 ② 安心で快適な教育環境の整備のために、組織的・計画的な学校安全を推進し、激甚化・頻発化している自然災害や、事故・事件、犯罪などに備えて子どもたちが自らの安全を確保できる資質・能力を育成する。 ③働き方改革を一層促進するだけでなく、教師の個別最適な学びや協働的な学びを支える仕組みを構築し、教職員のウェルビーイングを図る。	①県からの情報をタイムリーに職員に周知するとともに、不祥事防止研修の有用な運営を行い、不祥事を出さない職場づくりを推進する。 ②地域の安全上の課題を踏まえ、交通事故や犯罪等の実情、災害発生のメカニズムの基礎や様々な地域の災害事例、日常の備えや災害時の助け合いの大切さを理解し、地域の安全にも貢献できるようにする。また、心肺蘇生法等の実施。 ③教職員が個々の課題を認識し学びを深めるとともに、組織的な授業改善、業務改善を進め、業務へのモチベーションの高揚と働き方改革を推進する。	①年間の不祥事防止研修を各グループ等がテーマごとに担当することで、職員の規範意識の醸成を図る。 ②防災訓練、防災講話、D I G訓練等を地域と連携を図りながら実施する。 ②-2 保健体育科と連携を図り、授業の中で心肺蘇生法等を実施する。 ③管理職との面談により個々の課題や研修内容を確認する。 ③-2 教科目標等を設定とそれに基づく授業観察・フィードバックを行う。 ③-3 業務カレンダーを活用し、偏りない見通しあるグループ業務運営を行う。	①不祥事防止研修を計画どおり行うことができたか。 ②-1 防災マニュアルや訓練等が適正な内容で作成・実施できたか。 ②-2 心肺蘇生法を適正に実施することができたか。 ③-1 個々の課題を認識し、計画どおりの研修が行えたか。 ③-2 教科で組織的に授業改善を行うことができたか。 ③-3 各グループの業務運営が滞りなく行えたか。	①職員会議と合わせ、テーマによりグループが担当して研修を計画通り実施した。 ②防災スクールでの防災訓練等、地域（自治体等）との連携を図れた。 ②保健の授業で心肺蘇生法等の正しい手順を学ぶことができた。	①グループが担当することで、研修への意識は高まった。研修が日常に生きるよう、職場内の同僚性を高め規範意識の醸成に努めていく。 ②体験訓練が数名に限られたので、見学者も災害時の実感が持てる工夫をしたい。 ②実施回数の増やすため、実施時間をより確保できるようにしたい。	①職場の同僚性、学校組織の透明性は、職場の規範意識の醸成とともに事故不祥事防止にもなっている。より素晴らしい職場を作ってほしい。 ②防災訓練等は、今までの形態にとられず、日にちも時間も伝えないなどの工夫も大切である。 命に係わる心肺蘇生法等は、常に適切に生徒教員に実施することで、学校の安心・安全をより図ってほしい。 災害時には地域の高校生として協力も仰ぎたい。合同での防災訓練などもできたらよい。	①テーマに応じたグループ担当制により、研修への意識の高揚は図られた。より自分事としてとらえるためにはワークショップのような研修も必要である。 ②体験訓練者は災害発生のメカニズムの基礎や様々な地域の災害事例、日常の備えや災害時の助け合いの大切さを理解することができたが、見学者が実感を持てる工夫が必要であった。 ③校長との面談により、個々の教員への研修や業務への意識づけを行うことができた。 各グループの業務管理はグループごとに行えたが、企画会議での見える化も必要である。	①不祥事防止が常に自分事として意識できるよう、定期研修の継続に加え、ワークショップ的な研修も計画していきたい。 ②防災スクールでの防災訓練等、地域（自治体等）との連携は図れたので、実施時間をより確保して、実施回数・人数を増やせるようにしていきたい。 ③個々の研修について周知するとともに、面談等を通して自己研鑽の意識を働きかけていく。業務の見える化を図るため、各グループの業務予定を企画会議で共有し、企画会議全体で滞りない学校運営を図る。